The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「文化」の解読(17) : 移動と衝突の文化現象　はしがき
Author(s)	
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2017, 2016
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/62103
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

はしがき

ここに刊行するのは、「言語文化共同研究プロジェクト 2016」の一環として、「〈文化〉の解読（17）－移動と衝突の文化現象－」という名称の下、合計 5 名によって行なわれた共同研究の成果報告書である。メンバーのうち、4 名は大学院言語文化研究科に所属する教員、1 名は同志社大学グローバル地域文化学部に所属する教員である。

「〈文化〉の解読」をメインテーマとする共同研究プロジェクトは 2000 年に発足した。過去のサブテーマは以下のとおりである。「文化の意味作用について」（2000 年度）、「〈文化空間〉の政治学」（2001 年度）、「文化の政治性／政治の文化性」（2002 年度）、「文化批判の機能をめぐって」（2003 年度）、「文化生産の諸相」（2004 年度）、「文化受容のダイナミクス」（2005 年度）、「システムとしての文化」（2006 年度）、「想像力としての文化」（2007 年度）、「文化とアイデンティティ」（2008 年度）、「文化と身体」（2009 年度）、「文化とトポス」（2010 年度）、「文化と歴史／物語」（2011 年度）、「文化とコミュニティ」（2012 年度）、「文化と公共性」（2013 年度）、「文化と翻訳」（2014 年度）、「文化と権力」（2015 年度）。17 年目となる 2016 年度は、「移動と衝突の文化現象」というテーマを掲げて、本プロジェクトを遂行した。

収録した 5 本の論文の内容は、以下のとおりである。アウマン論文は、荘子の『内篇』における「化」と「覚」の概念をとりあげ、「真人」の理想との関係を論じている。津田論文は、シラーの文学作品における無意識の扱われ方を分析し、そこでは無意識は意識と対立しつつ、意識よりも優位な力をもつものとして描かれていることを明らかにしている。宮崎論文は、戦争やホロコーストを体験していない人間がそうした出来事の記憶にアクセスする想像力のあり方について、W. G. ゼーバルトの小説『移民たち』（1992）の読解を通じて考察している。山本論文は、1950 年代と再統一後に 2 度起こったケストナー児童文学の映画化ブームについて、映画社会学的な分析を行なっている。阿部論文は、「ドイツ・ポーランド善隣友好協力条約」締結 25 周年に鑑み、今日のドイツにおけるポーランド人社会の歴史と現状およびアイデンティティについて検討している。

本冊子のようなささやかな営みの積み重ねが、文化研究の未来につながることを切に願う。

2017 年 4 月

執筆者一同